



大学礼拝

Chapel News No.133

第133号 東北学院大学 2015年9月30日

巻頭言

「地の塩、世の光」



大学礼拝

宗教部長
野村 信

マタイによる福音書五章には、「地の塩、世の光」という、本学が大切にしていくスクール・モットー（建学の精神）があります。本学には、3L精神と呼ばれるもう一つのモットーがあります（前回の号をご覧ください）が、両者とも内容的には同じことを語っています。

まず、なぜ主イエス・キリストは、「あなたがたは地の塩である」と言われたのでしょうか。確かに当時も、塩は海水から取れるだけではなく、いわゆる岩塩といたのがあります。そのことから類推して、「地の塩であれ」とは、地域、社会、世界全体において何か良い役割、調和の取れた働きをするように私たちに告げられています。

この後に言われる「あなたがたは世の光である」という言葉も同様です。世界を照らす光であってほしいと言われています。ここで心に留めておきたいことは、「地の塩」としての働きも、「世の光」としての働きも、いずれもこれを語った主イエス・キリストが先頭に立って、模範を示してくださったという点です。

キリストが世界に真の光をもたらし、希望と救いの光で世界を照らし、地の塩として私たちの憎しみや争いをやわらげ、いやしてくださいました。それゆえ、地の塩、世の光という言葉は、何よりもキリストを見つめることでその深い意味を知ることが出来ます。

そこで、キリストが私たちに、「地の塩」、「世の光」であってほしいと言われたことの大切さが良くわかります。地の塩という言葉で、大地へ深々と染み込み、世の光という言葉で世界全体への広がり指しています。

「地の塩、世の光」というキリストの言葉は、献身的で、自己犠牲的な生き方です。それは同時に、とても慰めに満ちています。高いところだけではなく、低いところにもまで及んでいくからです。

皆さんは、「地の塩、世の光」をどのように実践しようと考えますか。大切な教えですから、各自、よくこの言葉の意味を思いめぐらし、どのように自分の人生を生きたらよいかを考えて下さい。

「わたしがそうなの です」

聖書 ヨハネによる福音書 第9章1～12節



横須賀小川町教会牧師

寺田 信一

私の四番目の娘は一八トリソミーという異常体質とファロー四徴症という先天性の疾患を持って生まれて来ました。私は「なぜ、そのような体質の人間がこの世に生まれてくるのか。しかも、なぜそれがウチでなければならぬのか」と問わずにはおれません。それは、ここに登場する弟子たちと同じ問いです。「両親のせいですか。本人が罪を犯したからですか」。しかし、そんな息苦しさの中で、主イエスのお言葉を聞き直すことになったのです。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」と。このお言葉により、私の問いは、原因を問う問いから目的を問う問いへと変わったのですが、それで楽になったわけではありません。神の業がどのようにして現れるのか、分

からなかったからです。事実、聖書の盲人は癒されたけれども、娘は癒されないうままでした。この違いに対する「なぜ？」という問いに、主イエスの「神の業がこの人に現れる」というお言葉が、どんな答えになるのでしょうか。

興味のあることに、男はこの後、主イエスを快く思っていないユダヤの指導者たちから「どうして見えるようになったのか」と尋ねられ、「あの方は、わたしの目を開けてくださった。あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならなかったはず」と答えます。「どうして見えるようになったかですって？ それはわたしをお癒しになったイエスさまが神さまのもとからお出でになったお方だからでしょうか？」、男はそう言ったのです。すると、ユダヤの指導者たちはこの人を町から追放してしまうのですが、そんな憐れな男に、主イエスのほうから駆け寄って来てくださいました。そして「あなたは人の子を信じるか」とお尋ねになり、男が「主よ、信じます」と告白するように導いてくださったのです。

主イエスは、目の見えない人の目を治すばかりでなく、その人が信仰を言いたい表すことができるように導いてくださるお方なのです。つまり、「神の御業がこの人に現れる」というのは、主イエスを見ることのできなかつた人が主イ

エスを見て、主イエスに向かって「主よ、信じます」と信仰を告白できるようになる、ということ、まさに主イエスへの開眼なのです。これによって初めて、自分の人生や肉体の意味、そして地上に引き起こされる出来事をも健やかに見つめることができるようになるのです。

しかし、それならば、信仰を告白することなく世を去った者はどうなるのでしょうか。結論から言えば、それは分かりません。私の四女も信仰を告白しないまま生後四五日目に息を引き取りました。その娘が、どうなるのかは分からない。けれども、その娘の息を引き取ってくださったのは、土から娘を造り出し、その鼻に息を吹き込まれ、娘を生きる者にしてくださいだった創造主なる神ご自身です。だから、娘をお預かりすることが許された私は、娘をそのまま神に返し、お委ねするのみです。しかも、そこで私が、娘の全存在を神に委ねながら「主よ、信じます」と告白するなら、それがわたしという人間に神の業が現れている、ということなのです。

神がご自身の御業を現すために用いられる人間とは誰か。「わたしがそうなのです」。皆さんも、悲しみや苦しみの中でお主を信じ、神の業を現す者となるために、この学び舎にお出でになりました。この見えない導きに、どうか目を留めてください。

◆寺田 信一氏

一九六七（昭和42）年に生まれる。

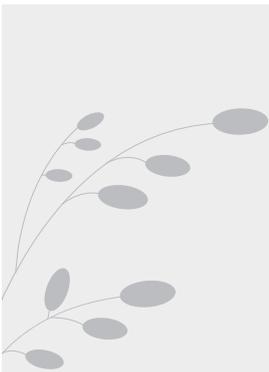
一九八五（昭和60）年
兵庫県立武庫之荘高等学校卒業。

一九八八（昭和63）年
東京農業大学短期大学農業科卒業。

一九九三（平成5）年
東京神学大学院博士課程前期課程修了。

その後、日本基督教団小金井西ノ台教会伝道師、同海老名教会牧師。

二〇一二（平成24）年より同横須賀小川町教会牧師として現在に至る。



「いのちとひかりを 与える神の愛」

聖書 ヨハネによる福音書 第10章1～21節



小田原十字町教会
馬場 康夫

きる、ということ。これがこの譬え話のもう一つを中心です。どうして、聴き分けることができるのか。羊が羊飼いを信頼しているからです。

なぜ羊が羊飼いを信頼しているのか。これもまたもう一つ繰り返される言葉が明らかにしています。三節「羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す」、四節「自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く」、一四節「わたしは自分の羊を知っており」という言葉です。主イエスが私たちを御自分の羊だ、と呼んでくださっておられるからです。主イエスは私たちのことをすべて御存知。御自分の手の中に、私たちを抱き抱えていてくださるのです。

私たちが聴いております新約聖書ヨハネによる福音書第一〇章一〜二二節に記されている譬え話の中心の一つは、一節「わたしは良い羊飼いです。」「一四節「わたしは良い羊飼いです。」「と繰り返されており、主に、主イエス・キリストが良い羊飼いです、ということ。私たちが良い羊飼いです、である主イエスによって養われ、育まれ、守られている羊である。どのようにして私たちは主イエスによって養われ、育まれ、守られているのか。

それは、もう一つ繰り返される言葉があらわしています。三節「羊はその声を聞き分ける」、四節「羊はその声を分ける」、一六節「羊もわたしの声を聞き分ける」、羊飼いが羊飼いの声をよく知っており、羊飼いの声をきくと聴き分けることがで

さらに主イエスは七節「わたしは羊の門である」、九節「わたしは門である」とも語られ、御自分は羊が入り出す門であることも明らかにしてくださいました。主イエスが羊飼いでありながら、羊が入り出す門である。なぜか。それは、羊の群れの囲いの門に羊飼いが寝そべったからです。羊飼いが門の扉になったのです。羊飼いは自分の体を張って、いのち懸けて羊の囲いの門になったのです。主イエスが羊の囲いの門になってくださり、羊である私たちがいのち懸けて守っていただく。

だから、主イエスは、一節「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊の

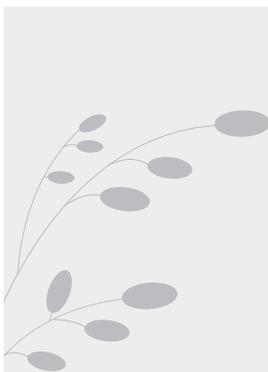
ために命を捨てる」、一五節「わたしは羊のために命を捨てる」と語られたのです。いのち懸けて私たちを守り抜いてくださる。明らかに主イエスの十字架の死です。神と私たちとの間には飛び越えていくことができない深い断絶があった。そこに主イエスは十字架によって道を創ってくださったのです。

それで、九節「わたしを通過して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つかる」、この門から伸びる道はどこに通じているのか。第一章六節「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」、父なる神のところ。神とともに生きる道です。この門をくぐり、この道を歩く時、豊かないのちを頂くことができます。神とともに生きる永遠のいのちです。このいのちは地上において既に神とともに生きるいのちだからこそ、私たちにひかりを与えるいのちなのです。



◆馬場 康夫氏

- 一九八二(昭和57)年三月 関西学院大学経済学部卒業
- 同年四月 東京神学大学三年次編入学
- 一九八四(昭和59)年三月 東京神学大学卒業
- 同年四月 東京神学大学大学院入学
- 一九八六(昭和61)年三月 東京神学大学院修士課程修了
- 一九八六(昭和61)年四月 日本基督教団十貫坂教会担任教師(伝道師、副教師)
- 一九八九(平成元)年四月 日本基督教団長崎教会主任担任教師(牧師)
- 一九九五(平成7)年四月 日本基督教団小田原十字町教会主任担任教師(牧師)
- 二〇〇一(平成13)年 全国連合長老会書記
- 二〇一〇(平成22)年 神奈川連合長老会議長



サマー
カレッジ
報告宗教部長
野村 信

毎年、夏休みが始まって最初の三日間は、恒例のサマー・カレッジが開催されます。今年は、八月三日から五日まで、「パウロと共に歩むー古代から現代へ」を主題に、初期キリスト教の発展の歴史を学びました。初日は、学長の松本宣郎先生が「古代ローマとキリスト教」という題で主題講演を担当されました。押川記念ホールで、公開講演会として開催し、一般の人々も含めて六〇人ほどの方が聴講されました。イエス・キリストの死後、様々な抵抗や迫害を受けつつ、キリスト教が各地に広がっていく様子を多くのスライドを用いて、大変わかりやすく説明していただき興味の尽きない一時でした。

夕方に蔵王の宿泊施設に到着後、総合人文学科二年生の山田保君による開会礼拝、夕食後、しばし楽しいリクレーション、そして私の夕べの祈りをもって一日目が終わりました。

二日目の朝は、法律学科二年の三浦智宏君の司会による朝礼拝が行われました。四年生で就活のために今回参加できない土田君の証を代読し、皆でその話を感謝して聞きました。その後は、「うたおう」という題のもとに、長谷部雄太君のギター、山田保君のボーカルに合わせ、「君は愛されるために生まれた」を一緒に歌いました。午前の第二回目の主題講演は、吉田新先生による「パウロと共に歩むー古代から現代へ」であり、学生たちに質問を投げかけながら、パウロの生涯を語り、その足跡を聖書を参照しつつ解説されました。映画「ハウルの動く城」や「ムーミン」のアニメ



なども使い、パウロの共同体建設についての聖書の箇所を考える楽しい一時でした。最後に小グループで討論をしました。午後から会場の裏にある美術館・島川記念館に見学に行きました。日本の現代画家の作品が多数所蔵されていて、館長の太田勇さんの丁寧な解説を受けながら、見ごた

えのある展示に魅了されました。午後のはじめは、恒例のスポーツ活動であり、今回は、参加者皆でソフトボールの競技をしました。空腹を夕食のバイキングで満たし、最後のプロگرامである夜の証と讚美の時を、落ち着いた雰囲気の中で、三名の証を聞きながら、行うことができました。原田浩司先生の夕べの祈りで締めくくりました。

ました。今回のカレッジについてのアンケートを記入した後、しばしの休憩、そして全体写真の後に満足の内に帰仙のバスに乗り込みました。今回のサマー・カレッジを振り返ると、以前よりも学生主体が進んでいるという印象であり、より楽しく、充実した企画を来年も目指したいという点で皆一致したと思います。



Campus messages

各キャンパス担当の先生たちからのご挨拶

泉キャンパス

大学宗教主任 原田 浩司



聖書の最後に収録されたヨハネの黙示録の最終章にこの言葉があります。

「見よ、わたしはすぐに来る。…わたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして、最後の者。初めであり、終わりである。」(12-14節)。

季節の変わり目は曖昧で、感覚的には、いつの間にか夏が終わり、いつの間にか秋になっていた感じがします。そして秋も終わり、冬が来ます。やがて冬も終わり、春が巡ってきます。終わりは、意外なほど「すぐに来る」ものです。

今年2015年の終わりもだんだん近づいてきます。そう思っているのも束の間、いつの間にか「すぐに来ます」。そして、4年間の大学生活も、いつの間にか終わりがすぐに来てしまうものです。はじめと終わりをしっかりと見据えることから、今を見つめ直すことは人生において大切です。大学礼拝を通して、4年間の学生時代に豊かな四季の彩りを添えていただきたいと思います。

土樋キャンパス

総合人文学科長 出村みや子



福音主義キリスト教を建学の理念としているこの東北学院大学は、「若者の心を育てる」教育をモットーとしてかげ、学生一人一人が豊かな人間性を養う場として一日の最も良い時間を大学礼拝に当てています。将来皆さんが周囲の人々に信頼され、社会のそれぞれの場で活躍する人材となるためには、しっかりと人格形成、豊かな精神性をはぐくむことが大切です。しかしそれには、聖書のみ言葉に心を開き、メッセージを聞くこととする態度が前提となるでしょう。

主イエスの語られた種まきの譬えには、当時の農夫の体験から、蒔かれた種が道端に落ちて鳥に食べられたり、石地に蒔かれて根を伸ばすことが出来なかつたり、茨に覆われて実を結ばない種がある一方、良い地に落ちて豊かに実を結ぶことが示されています。礼拝は一人一人の聞く力が問われる場でもあります。この秋私たちは心の土を柔らかくにして、福音が豊かに実を結ぶように、心の備えをしたいと思います。

多賀城キャンパス

大学宗教主任 吉田 新



ある学生からこのような質問を受けました。「なぜ、礼拝でキリスト教徒の方は下を向いて祈るのでしょうか。上にいる神様に向かって祈るなら、上を向いて、目を合わせるのがよいと思います。」確かにほくたちは祈りという敬虔さを表すために畏まって、下を向いて祈ります。しかし、実はこのような祈りの姿勢のみがふさわしいとは限りません。たとえば、初代キリスト教徒が礼拝を守っていたカタコンベと呼ばれるローマの地下墓地に、女性が祈る姿が壁に描かれています。その女性は手を広げて上も向いて祈っています。下を向いて畏まっているという姿とはほど遠い、天に向かって熱心に語りかける姿です。祈る時ばかりではなく、落ち込んだ時や疲れた時ついつい下を向きがちになります。キャンパスを歩くと下を向いて歩いて人もちらほら。できるだけ上を向き、「心を高くあげる」(哀歌三章四一節)毎日をご過ごしたいと思います。

「備えられたもの」

聖書 ルカによる福音書11章9～18節

東洋大学 教授
本名 靖

私の体験から申しますと、福祉施設で働いていて不思議に思っていることは「私たちの身体には自分の意志ではどうにもならない特別な装置が備わっている」ということです。

もう少し詳しく説明すると、施設で働いているとき、玄関で施設居住者から笑顔で「おはよう」といわれたとき、自分自身も知らない間に笑顔で「おはよう」と返事をしていることです。ごく当たり前の日常的な光景ですが、実はこの光景の中に今の科学では説明できない不思議な出来事が起こっているのです。

私が「おはよう」と笑顔で応えるという行為を分析すれば、その瞬間、私は施設居住者が笑顔で「おはよう」といつてくれたから、自分も笑顔で返さなければと意識しているわけではないのです。意識していないのに笑顔で「おはよ

う」と応えているのです。実に不思議です。このようなことは、日常的に起こっています。例えば、悲しいドラマに夢中になり主人公が涙を流すと知らない間に自分も涙を流している。また、保育園などでひとりの園児が泣き出すと泣きが他の園児に伝染し、ケラケラと笑い出せば、園児全体が笑いに包まれる。こんなことです。

このような現象を発達心理学の研究では身体と身体の同型性として説明しています。実験的に行われているのは、生後数週間の赤ん坊の両脇を抱え、目と目を合わせて母親が口をパクパクすると赤ん坊も同じ行動をすることが確認されています。生後数週間の赤ん坊ですから、意識があるわけではありません。単に母親の身体に意識とは別の次元で反応しているのしか考えられません。発達心理学では現象を説明できても、では何故このような現象(行動)が起こるのかといった原理まで説明することはできないのです。ただ、説明するとすれば私たちの身体には、他者の身体に同調(反応)する機能(他者とのチャネル)が備えられているのしか言えないのです。

もしも、私たちの意識とは別の次元で何かに反応する機能(チャネル)が人間の身体に備えられているとすれば、私たちが危機に陥ったとき、死の危険に直

面したとき、無上の喜びを体験したとき「かみさま」とつぶやく場面を想像して下さい。この場面で「かみさま」とつぶやくとき、私たちは神を意識して、「かみさま」とつぶやいているわけではありません。また、この場合の「かみさま」が基督教でいう「イエス・キリストの父なる神」を想定しているわけではないのかもしれない。しかし、私には意識とは別の次元で、人間の身体には他者に繋がるチャネルが備えられていると同じように、神に繋がるチャネルが備えられているのしか思われません。どうかこのことを忘れないで下さい。

あなたが意識しないところで、私たちの身体には神へのチャネルが備えられており、そのチャネルが繋がる時、あなたの経験した苦しみは和らぎ、喜びは膨らみ、あなたの人生がより豊かなものになるのだと思います。そして、是非、神へのチャネルが繋がったと意識したとき、「イエスは主なり」と言葉にして下さい。きつと、神への漠然としたチャネルが確かなものになり、今までとは別な意味で豊かな人生になると信じています。

◆本名 靖氏

昭和五十二年三月 東北学院
大学文学部キリスト教学科
卒業

平成四年三月 宮城教育大学
大学院教育学研究科(修士
課程) 障害児教育専攻修了
(教育学修士)

平成四年四月 学校法人ク
ラーク学園 和泉福祉専門
学校専任教員

平成七年四月 東海大学健康
科学部社会福祉学科専任講
師

平成十二年四月 東海大学健
康科学部社会福祉学科助教
授

平成十七年四月 東洋大学ラ
イフデザイン学部生活支援
学科助教

平成二十一年四月 東洋大学
ライフデザイン学部生活支
援学科教授

平成二十二年五月 厚生労働
省社会・援護局福祉基盤課
福祉人材確保対策室 介護
福祉専門官

平成二十四年四月 東洋大学
ライフデザイン学部・大学
院福祉デザイン研究科 教
授(現在に至る)

「生き方としての NPO・NGO」

聖書 ヨハネによる福音書13章1～15節



東洋英和女学院
中学部高等部教諭
野村 正宣

ACEFは一九九〇年以来、バンクラデシユのキリスト教NGOであるBDP(Basic Development Partners)とCo-workerの関係を築き、バンクラデシユの農村に寺子屋小学校を贈る運動を行ってきました。年2回(8月と3月)スタディツアー(ST)に出掛け学校訪問を通じて交流し学ぶことと、春と秋にアジアや教育の諸問題を知るセミナーを開いて学びを深めることを主な活動としております。

私自身は二〇〇〇年の夏のSTに参加しました。感じたことを列記します。
①私の授業では夜更かしをしたのか居眠りしたりボーとしている生徒がいるし、日本の学校では不登校に陥ってしまう生徒もいる一方で、バンクラデシユの寺子屋小学校の教室では子供たちの目が輝いている。学びたい気持ちが溢

れている。この違いは何だ？学びの場というのは本来こうあるべきではなかったか？②寺子屋小学校の先生方の生徒達への真向かい方、BDPスタッフたちの教育事業への情熱、私たちゲストたちへの心遣いの細やかさ・温かさ、家族の繋がり、の深さ、ひいては人と人との繋がり、の尊重の度合いの違いなどを感じた。③自分は日本の学校で教員として働く者だけでも、一方でこのように学びの場を必要としている現実があることに對して放ってはいられない、見たのに何の関わりもなくはいられないという思いになった。それ以降、このSTで感じたことを自分にとっての「宿題」としてACEFのムーブメントにコミットしてきたのだと思います。

NPO(NGO)にコミットするということ、いかにキリスト者的な事か、ということの根拠を示す聖書箇所は幾つも指摘することができます。その一つが洗足の主イエスの記事でしょう。主イエスは屈んで弟子たちの足を洗われたことで僕(しもべ)の向かい方をしたのであり、仕える者となられたということなのでしょう。その事が究極の形で示されたのが主の十字架の出来事であり、それは今の私たちに對しても心にかけて、仕えて下さっているということなのでしょう。それがわかったのなら「あなた方も互いに足を洗い合わな

ければならない。(14節)と言つのです。私達が足を洗って差し上げる人々とは誰でしょうか。

皆さんは東北学院というキリスト教を建学の精神・土台としている学校に学ばれているということ、を是非意識していただきたいと願います。他の大学の同学部と同じでしょうか？違ふと思うのです。今こうして実際、「礼拝」なるものに参加しておられる。これは他の大学同学部とかなり違ふことです。そしてその事が今後どういふ違いとなつていってほしいか、ということ、を申し上げれば、「告白的な生き方」に繋がります。ということでありましょう。皆さんは日頃「3L精神」といったこの学院の建学の精神を聞かされて自らの中で問答し、その精神たるや良しとして学業を続けておられるのではないのでしょうか。そうであつてみれば、その自分の価値観が鍛えられ養われてきたところのこれから先の人格は、これまでの学びの「告白的な生き方」を是非選び取っていただきたいのです。「自分だけではない誰かのために」といふ隣人愛の生き方の一つとして「NPO(NGO)にコミットして生きる」といふ生き方をお奨めしたくて本日お話しさせていただきました。

◆野村 正宣氏

一九六五年(昭和40年)生まれ
る。

学歴

一九八四年(昭和59年)三月
埼玉県立川越高等学校卒業
一九八九年(昭和64年)三月
東北大学教育学部卒業

職歴

一九八九年(昭和64年)四月
宮城学院中学校高等学校
(国語科)教諭(一九九九年三月)

一九九九年(平成11年)四月
東洋英和女学院中学部高等部(国語科)教諭

二〇一四年(平成26年) 同校

進路指導主任

日本基督教団銀座教会役員、伝道委員長

キリスト教学校教育同盟広報委員

白井学園ひなぎく幼稚園理事
アジアキリスト教教育基金(ACEE)理事、プログラム委員長



秋の行事と 予告



実りの秋を迎え、続いてクリスマスまで、祝う季節が近づいてきました。今後の幾つかの行事についてお知らせします。

一、秋季特別伝道礼拝のお知らせ

年に二回、特別伝道礼拝を行います。春は教会に仕える牧師の先生方をお招きして聖書のお話を聞き、秋は社会で活動している方々からお話を伺います。今秋の予定です。

◆泉キャンパス礼拝堂

日時 二〇二五年十月七日(水)
十時十分〜十一時00分
講師 坪井 節子 氏

(社会福祉法人カリオン子どもセンター)

◆多賀城キャンパス礼拝堂

日時 二〇二五年十月七日(水)
十時十分〜十一時00分

講師 澤谷 常清 氏(カナンの園)

◆土樋キャンパス礼拝堂(昼)

日時 二〇二五年十月八日(木)
十時十分〜十一時00分

講師 澤谷 常清 氏(カナンの園)

◆土樋キャンパス礼拝堂(夜)

日時 二〇二五年十月七日(水)
十九時三十分〜二十時二十五分

講師 坪井 節子 氏
(社会福祉法人カリオン子どもセンター)

二、宗教改革記念日(十月三十一日)

ドイツのヴィッテンベルク大学の聖書の教授であったマルティン・ルターは、一五一七年十月三十一日に、免罪符の販売などに関する公開質問状(「九十五箇条の論題」)を聖堂の門に張り出しました。これがきっかけとなって宗教改革が各地に広がり、プロテスタントと呼ばれるキリスト教の新しい教会の群れが誕生しました。私たちの東北学院はこのプロテスタント(福音主義、新教とも呼ばれる)教会の集まりに属しています。当日は大学礼拝やキリスト教学で、この記念日の意義について触れることと思います。

三、収穫感謝日(十一月第四木曜日)

この季節に世界の各地で秋の収穫のお祭りが行われますが、キリスト教では、特に米国とカナダで盛大に祝われます。その起源は、一六二〇年にさかのぼりますが、メイフラワー号に乗って新天地を求めて旅立った清教徒たちはアメリカ東海岸に上陸しました。しかし移住者の半数が失われるほど過酷な時を過ごし、翌年の秋に収穫が与えられて生き延びることができました。これを記念してお祭りを行います。秋の実りを感謝すると同時に、神に養われていること覚え、感謝す

る日です。

四、待降節(アドベント)

イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス(十二月二十五日)の前の四週間を「待降節」と呼び、その最初の日曜日を待降節第一主日と定め、教会の暦は始まります。キリストの誕生を暗い世界に光が誕生したと聖書では理解するので(イザヤ九・一、ヨハネ一・五)、夜の長いこの時期に光なるキリストが到来したことを祝うのは、時季にならって嬉しいものです。家屋や街路にイルミネーションを飾るという習慣は日本全国に定着しました。大学の諸行事は左記を参照してください。

編集後記

暑かった夏も終わり、だいぶ涼しい日々となりました。秋の号をお届けします。八頁の構成で、紙面にゆとりが出来たので、昨年の秋と今春の特別伝道礼拝で説教してくださった先生方の原稿の要約を掲載します。読み返して、思い起こしてください。

ところで、学生の皆さんの今年の「秋の実り」はいかがですか。充実した研鑽と良い学生生活が続きますように祈っています。

二〇二五年九月三〇日
東北学院大学宗教部
編集者 野村 信

〒九八〇一八五一
仙台市青葉区土樋一丁目三番一号

◆クリスマス礼拝のご案内◆

★第27回泉キャンパスクリスマス
12月4日(金) 18時30分〜
泉キャンパス礼拝堂

第一部
礼拝
説教者：仙台東六番丁教会
中本 純 牧師

第二部
クリスマスコンサート
クリスマス・メドレー演奏、学生有志合唱団、みんなで歌おう、キャンドルサービス 他

★大学クリスマス
泉キャンパス：12月17日(木)
10時25分〜
土樋キャンパス：12月17日(木)
16時25分〜
多賀城キャンパス：12月18日(金)
10時25分〜
説教者：東京神学大学准教授
小泉 健 氏
オラトリオ「メサイア」合唱